

## 八戸市総合計画策定委員会 第1回専門部会「人づくり戦略部会」 議事概要

日 時：平成27年1月23日（金） 13：40～15：30

場 所：八戸グランドホテル2階 グランドホール

出席委員：6名

類家委員（部会長）、平間委員（副部会長）、小向委員、馬場委員、工藤委員、吉田委員

事務局：

政策推進課（中野主査・川村主査）、こども家庭課（工藤副参事・森林主幹）、健康増進課（山田副参事）、学校教育課（茨島参事）、教育指導課（嘉瀬副参事）、総合教育センター（高谷副所長）、市民連携推進課（大嶋副参事）、雇用対策支援課（松橋副参事）

（株）ケー・シー・エス 東北支社 城平

次 第：

- 1 開会
- 2 正副部会長の選任について
- 3 部会長・副部会長あいさつ
- 4 審議案件  
審議1. 戦略ごとのプロジェクトの方向性について
- 5 その他
- 6 閉会

部会長・副部会長の選任：

・委員の互選により部会長に「類家委員」、副部会長に「平間委員」を選任。

審議案件に関する主な意見：

### ①子育て・教育プロジェクト（仮）

#### 【定住促進について】

##### ■現状・課題

- ・子育てをしている定住層を増やしていかなければ、八戸市の未来はないと思う。これからの出産を支援するだけでなく、現在、子育てをしている人たちをどう八戸市に定住させていくのかということが人づくりになるため、子育てプロジェクトの充実を図ることが必要だと思う。
- ・八戸市内の中でも、中心部と周辺部で格差があり、周辺部の学校はどんどんなくなっていく。周辺部では、一度、地域を離れた後、地域に戻ってきたいが、市街化調整区域などの問題があり、家が建てられないという問題がある。

##### ■施策イメージ（方向性）

- ・学校を中心として半径1km圏内に戻ってこられるような施策を打ち出すことが考えられる。そういった場所を作って、人を呼び込み、学校や地域との関わりを増やしていくという展開が期待できる。ただし、親と子の接する時間と深さが短いという現状の中では、学校と地域の環境が整えば整うほど、親の関わりが希薄化する危険性もある。

#### 【地域による子育て支援について】

##### ■現状・課題

- ・子育てについて、気軽に相談できる場の整備が必要だと思う。核家族化しており、子育てが不安で、誰に相談すれば良いのかわからないという人が多い状況の中で、身近で気軽に相談できる場

が現状では少ないと思う。

#### ■施策イメージ（方向性）

- ・地域の共同体で子どもを育てるという考え方が必要で、日常的に子育てについて相談でき、子育て支援ができる場として、例えば、地域おじいちゃんや地域おばあちゃん、サロンなどを拡充するため、子育てが終わった人たち（一段落した人たち）を巻き込み、地域で子育てを行うことが考えられる。そういった出会いの場を町内会単位で設定できれば良いと思う。結果として、地域の高齢者を大切にするという考えが醸成されるという可能性もある。
- ・育児をしてくれる高齢者で、「イクジイ」という言葉も出てきており、八戸市でもそういった人が育ちつつあるので、活用することが考えられる。

### 【地域を巻き込んだ教育について】

#### ■現状・課題

- ・小学校低学年で不安定な子どもが増えてきていると思う。小学校低学年に対して、補助の先生が付いているが、定数 35 人は変わらない中で、先生 1 人では見きれていない現状があると思う。そのため、子どもが小さい時の教育を充実することが必要となる。これらは、学校関係者だけでは対応しきれないと思う。そのため、学校関係者だけでなく地域を巻き込んだ教育のあり方を検討することが必要となる。
- ・小中学校の学校教育について、地域の方が学校教育に入り、地域探検を行ったり、地域の歴史を教えたりするなど、八戸市は地域密着が進んでいると思う。ただ、足りない部分としては、職業体験があげられると思う。小中学校はそれなりに実施しているが、高校や大学における職業体験が少ないと思う。
- ・地域との関わりについて、高校からは特に離れる傾向がある。
- ・地域社会の伝統を引き継いでいくということについて、少し家庭任せになっている部分もあると思う。

#### ■施策イメージ（方向性）

- ・今までの親だけの関わり方ではなく、例えば、入学式や卒業式に親だけでなく地域の人たちで参加して子どもを祝ってあげるなど、地域の子どもに対する関わり方などを検討していくことが考えられる。
- ・八戸市は産業が集積しており働く場が多くある。そういったものを打ち出して、体験してもらい、理解してもらい試みが考えられる。また、海側と山側の交流があまりない。例えば、山の学校の生徒が、海の産業を体験するなどの試みが少ないので、そういった地域間の交流を図る試みが考えられる。
- ・NPOや地域イベントなど、地域と関われる材料はあると思うので、それらを教育と絡めることが考えられる。
- ・地域の歴史、伝統行事を学んだり、体験したりすることが少なくなっており、地域性が失われる危険性があるので、学校教育の中で実施することが考えられる。
- ・学校の先生だけでは不足していると思うので、親を助ける味方となる人として、第三者の介入が考えられる。八戸市は、小中学校に入っている地域の人たち（教育支援ボランティア）が多く、現場の先生は助かっていると思うが、人数や時間の制限があるので、もっと拡充できれば良いと思う。

## 【教育の格差問題について】

### ■現状・課題

- ・学ぶという段階の問題以前に、食えることが問題となっている状況が発生しており、小中学校の段階で教育における格差が生じてきている。
- ・子どもを育てるのは、一番は親だと思うが、親と子の時間が足りない現状があり、不登校など問題を持つ生徒が増えており、問題も多様化している。

### ■施策イメージ（方向性）

- ・親を教育する施策も必要になる。

## 【福祉と教育の融合について】

### ■現状・課題

- ・0歳児の時から長いスパンで見て、高校を卒業するくらいまで地域が関わり、育てるようにすることが必要だと思う。

### ■施策イメージ（方向性）

- ・例えば、小学校については学童と教育の連携があまりない状況で、連携できれば問題点を共有できて、地域を巻き込むことができる。八戸市はそれぞれのパイプが繋がれば、長いスパンで育てられる地域だと思う。中学校区に公民館があり、それぞれの地域にサロンがあるので、そこを拠点にして展開してそれぞれのパイプをつなげられれば良いと思う。
- ・福祉と教育の融合に関連する施策として、サロンと学校教育の連携が考えられる。

## 【国際交流と学校教育について】

### ■現状・課題

- ・市民アンケート結果でも、男女共同や国際化に対応していないことが問題として示されていた。非常に重要な問題で、政策などにより意識を変えていくことが必要だと思う。

### ■施策イメージ（方向性）

- ・国際化の人づくり戦略の中における位置づけについては、グリーンツーリズムやエコツーリズムなどにより外国人観光客を誘致する施策を八戸市にも取り入れることが考えられると思う。青森市ではベトナムとかタイの学生を受け入れて効果を上げている。八戸市ではまだ事例がないが、ブルーツーリズムとして漁業関係で受け入れることが考えられる。

## ②女性活躍プロジェクト（仮）

### 【女性活躍プロジェクトの名称について】

- ・プロジェクトの名称について、女性の活躍は重要だが、女性だけに焦点をあてるのではなく、女性を取り巻く環境、例えば、男性の生き方の変化の必要性などが見えるようなプロジェクト名でも良いと思う。例えば、男女共同や男女平等などの視点で、男女共同参画などの名称の方が良いのではないかと思う。

### 【男性の意識改革について】

#### ■現状・課題

- ・少子化に関係してくる問題で、女性だけでなく男性がどのように生活していくかが重要となる。例えば、男性が子育てに協力的であれば、女性は第2子、第3子を出産する確率が高まるというデータがあると聞いたことがある。

- ・子育てに関する男性の意識向上が必要だが、若い世代の人たちは比較的意識が高いと思う。問題なのは、その人たちの上司にあたる人たちの意識で、そこを改善していかなければ、子育てしやすい環境にならないと思う。

#### ■施策イメージ（方向性）

- ・行政でできることと、民間でできることがある。意識改革については、民間の対応の方が大きいと思う。
- ・企業に対して、子育てや家庭の重要性を意識してもらうため、人手不足につながる可能性を理解してもらい、意識改革の必要性をアピールすることが考えられる。
- ・商工会や経営者協会に対して、情報発信を行い、問題意識や意識改革の必要性を共有することが考えられる。
- ・勤務形態や勤務時間の多様化などの改革実施や子育てに関する行政のさらなる援助を実施することが考えられる。
- ・中小企業では育児休暇をとることはなかなか難しいので、市役所や大企業など、とれるところからとっていくことが考えられ、トップの人たちが率先してとって、浸透させていくことが考えられる。

### 【女性の子育て負担の軽減について】

#### ■現状・課題

- ・男女共同参画などの研修会の際、女性が子育て等により多忙なため参加できないなど、参加が少ない現状があった。
- ・日本は、先進国の中でも女性の家事労働の時間はワースト3に入っている。
- ・これらの軽減を行わなければ、女性の子育て以外に向かう、意欲ややる気がでないと思う。

#### ■施策イメージ（方向性）

- ・収入が低くて、共働きしなければ育てられないという現状を認識することが必要で、思い切った施策が必要となる。例えば、若者で八戸市に戻ってきている人たちはいるので、市営住宅をリフォームして格安で若者に用意するなどの施策が考えられる。

### 【女性の社会参加の場について】

#### ■現状・課題

- ・女性が活躍する場が八戸市はまだ圧倒的に少ないと思う。また、若い女性が意見を述べる場もないと思う。そういった場を意識的に作っていかなければ、改善は進まないと思う。

#### ■施策イメージ（方向性）

- ・男女共同参画に関する研修などについて、若い世代から男女を一緒に招集して意識改革を行うことが考えられる。結果として、女性の活躍する場が増えると思う。
- ・また、保育園の料金が高いので、働くことよりも、家で子育てすることを選んでいくケースが多いと思う。そこにメスを入れて、能力的に高い女性が積極的に働きに行けるようにすることが必要だと思う。

## ③その他

### 【人づくり戦略全般について】

- ・一般論ではなく、八戸らしい人づくりとは、八戸らしい子育てや教育とはどうあるべきか、八戸

らしい女性の活躍の場、八戸らしい男女共同参画のあり方を検討していくべきだと思う。

- ・子育てや教育などの現状を把握した上で、どう対応していくのか、八戸の中で子どもたちをどう育てていくのか、どう育てながら教育していくのか、そのための知恵が重要で、そこが示せば、結果として八戸に定住してくれる人たちが増えると思う。
- ・また、若者の定住については、大人が八戸市のことをあまり良く思っていない、良く言っていないことが影響していると思うので、そういった意味も含めて、大人の教育、学び合いなどの機会があれば良いと思う。

#### ④次回に向けた委員からのデータ提供要望

- ・福祉と教育の融合の実施事例
- ・八戸市内の子育てサポートの施策事例（サロン、地域おじいちゃん・おばあちゃんなど）とその稼働状況
- ・八戸市の地域密着型教育の実施状況
- ・八戸市内の教育サポートの施策事例（カウンセラー、電話相談、心の教室相談、教育支援ボランティアなど）とその稼働状況
- ・八戸市内の所得格差の状況（教育格差に派生している可能性）
- ・八戸市内の一人親の比率（4人に1人程度と想定され、子どもの成長に影響を及ぼしている可能性あり）
- ・八戸市内の不登校児の比率（一人親との関係性）
- ・八戸市における女性の家事労働の時間

#### 【第1回結果概要と第2回に向けた対応】

- ・子育ては、生まれてから高校卒業までという長いスパンで子育て・教育支援を行うことが必要で、福祉と教育の融合について、八戸らしい施策を示していくことが必要となる。
- ・若い世代の人たちが少しずつ八戸に戻ってきていることを視野に入れて、施策を示していくことが必要となる。
- ・八戸で生まれて、八戸で子育てをしていくために、特に若い世代については夫婦だけでは難しい部分があるため、地域おじいちゃん、地域おばあちゃん、イクジイ、サロン、その他地域資源などの場を作って応援することが必要となる。
- ・教育については、学校関係者だけでなく、地域を巻き込んだ教育を展開していくことが必要となる。
- ・女性の活躍の場を確保するため、男性の意識改革、企業の意識改革が必要で、そのための施策を示していくことが必要となる。
- ・空き家の活用や市営住宅のリフォームなどの住宅に関する手当を充実して、子育てや女性活躍を支援していくことが必要となる。
- ・上記のように、長期的かつ総合的な視点での施策が必要となる。